

在マイアミ総領事からの活動報告

2011年9月22日
在マイアミ日本総領事
川原 英一

(報告内容)

1. 山根隆治外務副大臣の御来訪
2. メキシコ・中米諸国のナショナル・デー
3. ミスキー・アメリカインディアン・デー
4. フロリダ州立大学アメフト(FIU 対 UCF)戦

山根外務副大臣のマイアミ御来訪

9月19日午後、山根副大臣は、ハイチ視察の途中にマイアミにお立寄りになられたので、お迎えして当地事情をご説明致しました。副大臣は、フロリダ州の経済規模が約75百億ドルで、各国経済規模で比較すれば、韓国やオランダに次ぐ規模であること、米大統領選では、毎回フロリダ州の結果が大いに注目されること、州内に軍事施設が数多く、沖縄在日米軍として過去勤務した軍関係者が当地でも活躍したり、退役された方も多いこと、観光・ホスピタリティ産業が特に盛んで、北米、特にカナダから避寒のため、毎年スノーバードと呼ばれる3百万人がフロリダに長期滞在にやって来ること、クルーズ船の旅は大変に人気があり、日本も含め世界各国からクルーズ客が集まっていること、マイアミが中南米諸国へのゲートウェイとなっており、中南米諸国との間で人・貨物の往来が極めて活発なことなど、印象深く、感じられた御様子でした。



メキシコ・中南米諸国のナショナル・デー

9月15日は、メキシコ(墨)と中米諸国がスペインからの独立を宣言した日であり、当地の関係国総領事が主催するレセプションが14日(中米諸国)、15日(墨)、16日(コスタリカ)に分散して開催され、3日連続で当方もお祝いに参りました。



特に盛大であったのは、15日夜のメキシコ独立記念日です。マイアミ・デート・カレッジの体育館を借り切り、午後6時から9時まで祝賀行事がありました。同会場には、当地で活躍するメキシコ・コミュニティの方が約2千名も参集し、

日本の太鼓を思わせるビートで、アステカの踊り(写真)なども披露されました。米・メキシコ両国の国歌斉唱の後、クライマックスは独立宣言をした190年前を思い起こさせるかのように、スペインとの戦いに赴く兵士を募るための鐘を総領事が叩き、観衆とともにメキシコを讃えての連呼(「ビバ・メヒコ」)、そして国旗を振りかざす、とても動きのある形のフィナーレでした。

◆ミコスキー・アメリカ・インディアン・デー

9月13日午後、フロリダ市中心部の川沿いに2年前に建てられたという立派な石造りのミコスキー大使館で記念式典がありました。主催者代表(議長)のご挨拶の中で、アメリカ・インディアンの歴史をより多くの人に知ってもらいたいとの願いから、式典を実施しているとお話がありました。代表の方とお話する機会があり、アジアからベーリング海峡を渡り、北米・南米に移り住んだ人達がおり、こうした子孫がアメリカ・インディアンではないかという調査結果があることや遺伝子的に共通なところがあるのではないかと、と当方から述べたところ、議長は、大いに共通するところがあると思う旨喜んでお話をされていました。



◆フロリダ州立大学アメフト・リーグ戦

米国の4大スポーツの一つにアメフトがあります。先週末、フロリダ国際大学(FIU)のSIPA(国際公共政策研究)への学外諮問委メンバーである当方に対して同大学からのお招きがあり、同大学とフロリダ中央大学(UCF)とのアメフト戦を観戦しました。4万5千人収容のスタジアムがFIU大学キャンパスの中にあることにまず驚き



ましたが、当日は満席状態で、観戦中の応援も大変な熱狂ぶりで、スタジアム全体が地響きするほどのすさまじさでした。また、両大学アメフトチーム選手の数の多さ(試合は両チームが各11名の選手でプレイしますが、ディフェンスと攻撃との途中で選手交代を何度も繰り返していました)があり、両大学の吹奏楽団とチア・ガールのパフォーマンス合戦がありました。TV放映されており、スタジアム内の大画面で試合が大写しにされており、途中の休憩タイムも応援合戦が盛り上がり、観客は大いに観戦を楽しんでいる様子でした。なお、観戦場所は、大学教職員のための特設部屋となっていて、大学理事長、副理事長、各学部長、主要教授と同家族の方々に溢れており、大学教職員の親睦を図るサーロンの機能も果たしていることがよくわかりました。(了)